

(9) 中国



中国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鋳工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

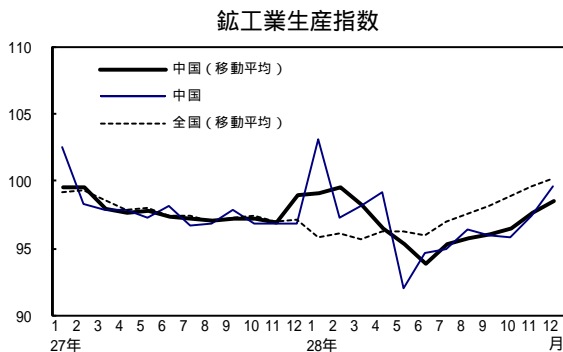
前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年11月)	今回(平成29年2月)
景況判断	緩やかな回復基調	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調
鋳工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き
個人消費	持ち直しの動き	持ち直しの動きが続いているものの、足踏み

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10~12月期には、輸送機械は、新型車効果や軽乗用車の生産が回復したこと等から増加した。化学は、工場の定期修理の反動増等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、ボイラ部品、半導体製造装置等の需要が増えたことから増加した。鉄鋼は、引き続き需要は堅調ではあるものの、前期から減少した。電子部品・デバイス、車載部品、スマートフォン用が引き続き好調で増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	23.5	3.4	1.0	6.0	3.1	1.1
化学	16.4	4.5	1.9	2.4	12.1	6.0
はん用・生産用・業務用機械	11.2	7.8	4.0	3.2	0.2	1.8
鉄鋼	7.7	3.5	0.3	0.1	1.1	2.7
電子部品・デバイス	7.1	3.1	4.2	2.9	0.1	1.5
鋳工業	100.0	0.5	1.9	0.2	1.8	2.2

- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

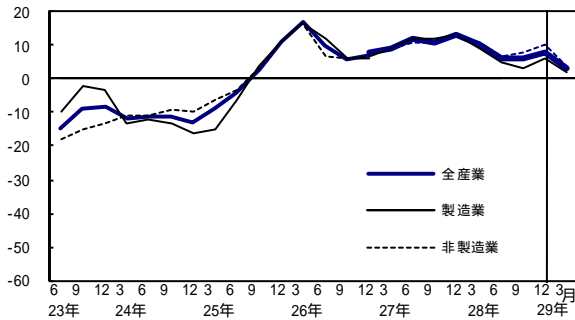
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期、12月は速報値。

(9) 中国

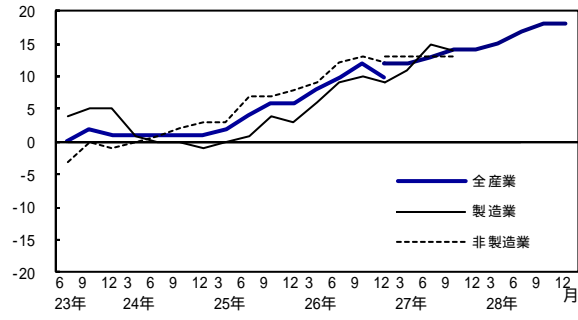
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



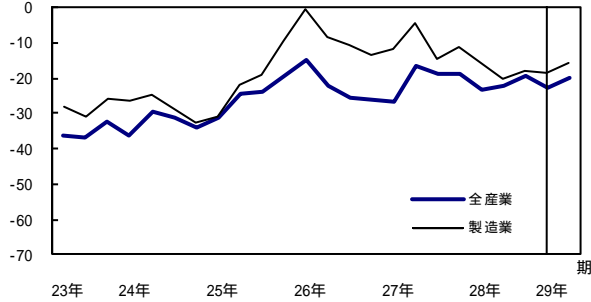
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



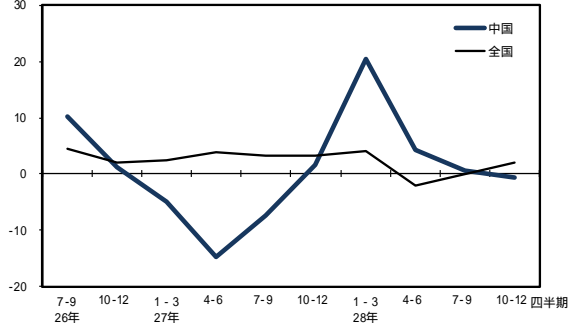
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「金属相場の高め推移が続いており、収益向上要因となっている。また液晶パネルも昨夏から客の高稼働が続いており、生産状況、販売状況共に好調を維持している(非鉄金属製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事はおおむね横ばいとなっている。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年度計画
全産業	5.7	18.2(4.8)
製造業	0.9	23.4(1.7)
非製造業	15.3	11.6(9.5)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.5%増、11月は同0.8%減、12月は同1.2%減となった。

百貨店・スーパー販売額

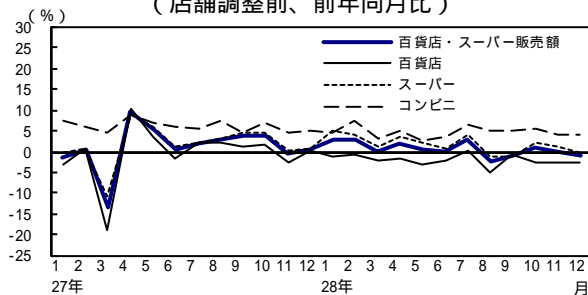
百貨店は、10月は、一部で地元球団優勝記念品が好調だったが、平年よりも気温の高い日が多く、秋冬物の衣料品が苦戦したため、前年を下回った。11月は、平年よりも気温の高い日が多く、冬物の衣料品が引き続き苦戦し、飲食料品と家具は前年の催事の反動もあり低調となり前年を下回った。12月は、化粧品や舶来時計、宝飾品には良い動きがみられたものの、平年よりも気温の高い日が多く、引き続き冬物の衣料品が低迷し、全体としては前年を下回った。

スーパーは、平年よりも気温の高い日が多く、冬物の婦人服、寝具などが苦戦した。一方、飲食料品は、野菜の相場高により好調で、カット野菜や惣菜などがよく売れたことから、全体としては前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「大雪などの悪天候で通常に営業できる日が少なくなっている(一般小売店[眼鏡])」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



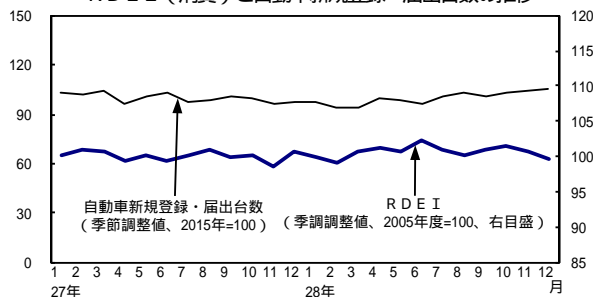
	28年10-12月	28年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.1	0.5	0.8	1.2
百貨店・スーパー(*2)	0.1	0.9	0.0	1.0
百貨店(*2)	2.6	2.6	2.6	2.6
スーパー(*2)	1.0	2.3	1.2	0.2
コンビニ(*2)	4.6	5.7	4.0	4.1
乗用車(*3)	6.7	2.9	9.3	7.7
(季節調整値)(*3)	2.4	1.7	1.1	1.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

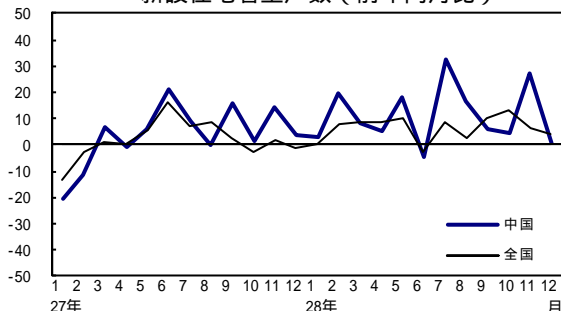


(2) 住宅建設は大幅に増加している。

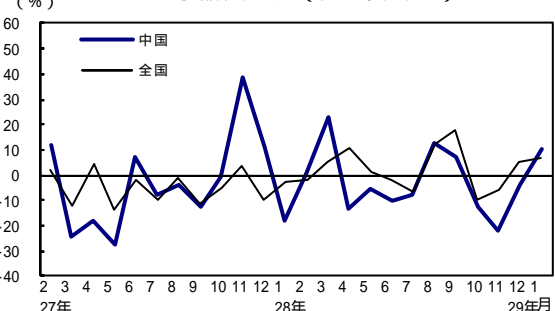
分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を下回っている。

(%) 新設住宅着工戸数 (前年同月比)



(%) 公共工事請負金額 (前年同月比)



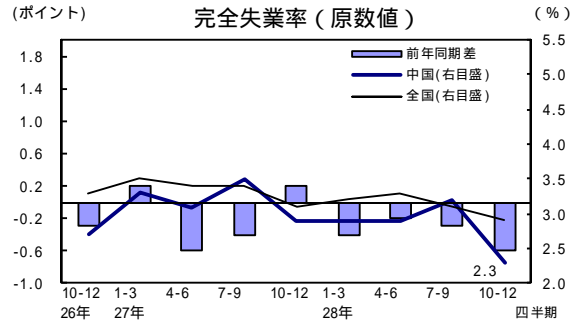
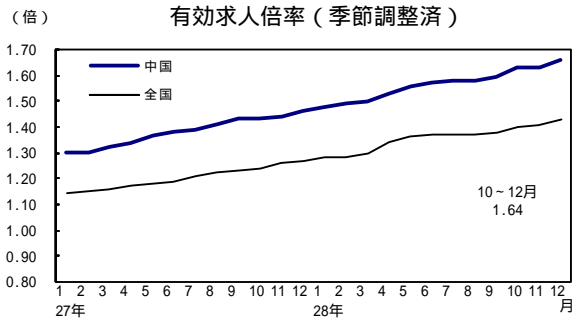
(9) 中国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連 (現状)]

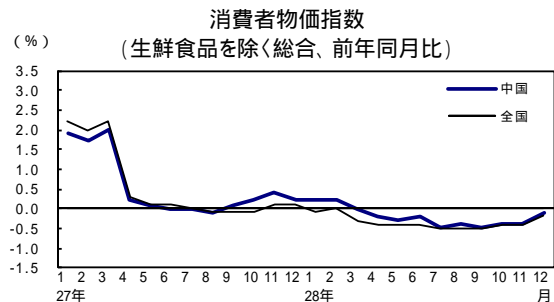
「地元で雇用する求人が以前に比べて増加してきている (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	29年1月
倒産件数	91	90	93	74	33
(前年比)	23.5	2.2	6.9	12.9	26.9
負債総額	154	145	122	575	427
(前年比)	41.8	11.3	34.5	338.8	674.9



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・今月は2週にわたる寒波襲来でキャンセルが多発し、予想した宿泊客数を大きく下回っている (都市型ホテル)。

<先行き>

・住宅着工戸数は増加傾向にあるが、12月の住宅ローンの契約件数の減少と米国の新大統領就任による影響で、株価や為替の動向が不明確であり、将来の景気動向を読みえない状況である (木材木製品製造業)。

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

